

文化社会学A 大谷 裕文	履修年次	クラス	単位	学期
	2-4/3-4		2/4	前期/通年
備考： 文化社会学				

【講義の概要】

2011年度の文化社会学Aでは、社会学的思考の発展を担った主要な社会学者のパラダイムを検討しながら、文化社会学の基本的な視座、方法、問題構成について述べていきます。特に今日の社会学者、アンソニー・ギデンズとピエール・ブルデュに関しては、近代性（モダニティ）の再検討とグローバル化論の問題構成との関係において、この2人の社会学の可能性について掘り下げて議論を行う予定です。毎回の授業内容は、次の通りです。

- 1 社会学の誕生～ド・メーストル、ド・ボナール、オーギュスト・コント
- 2 M.ウエーバー社会学の基礎概念
- 3 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の現代的意味
- 4 M.ウエーバーの比較文化論
- 5 G.ジンメル社会学～異人論と流行論
- 6 E.デュルケイム社会学の基礎概念
- 7 E.デュルケイム集合表象論の再検討
- 8 M.モースの贈与論とその現代的意味
- 9 初期アメリカ社会学の諸相
- 10 T.パーソンズとR.ダーレンドルフ
- 11 A.シュッツの現象学的社会学
- 12 P.バーガー社会学の展開
- 13 N.エリアスの「文明化論」～その今日的意味
- 14 P.ブルデュのプラティーク論
- 15 A.ギデンズのグローバル化論

【テキスト】

特に使用しません。

【参考書等】

参考書として以下の書籍を指定します。
奥井智之著、『社会学の歴史』、東京大学出版会

【成績評価の方法】

学期末試験の成績によって成績評価をおこないます。

【履修上の注意】

授業の前、授業の後、あるいは試験前に図書館などで参考書の関連する箇所に通し、内容を良く理解しておいて下さい。